

# あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

## 第10回 議事概要

日時	2024年5月13日(月) 14:30~17:30
場所	唐戸市場 会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：吉田、木村隼、木村大、清原、安本、井上、有賀 専門家：熊谷、榎本、大橋、長町 地域事業者：郷田、阿部、原田、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 内田、田中、平山、村上

### 1. R7年秋に向けたロードマップ

下関市イノベ課より資料説明の上、議論

- 市場前遊歩道空間、東船溜まり、マリンパークなど2か年の社会実験となっているが、一部でも行政側で実装する部分はないのか、適宜協議しながら実装もありと考えて良いか。リゾナーレの開業までに、できるところは進めていくことが必要であり、それがエリアのPRになる。
- 公民での事業分担について仕分けができていない箇所もある。秋の社会実験でそうした部分も整理し、実装に向かっていく必要がある。  
→実証して終わり、でなく、常設を見据えて進めていく必要がある。「イノベ課は実証まで、そこからはまた別」ということではなく、当初から担当課を想定して協議を進めていくこと。  
→リゾナーレの開業を一つのマイルストーンとして目指すことが必要、ということは考え方としてしっかりと推進会議でも確認していく必要がある。
- エリアマネジメントの体制をいつ立ち上げていくか、財源の検討や権限の設定等も見据えて現実的なスケジュールを想定していくことが必要。また、例えばいきなり立ち上がらないにしても、準備委員会のようなものを先に組成していくなども考えていくべき。
- 今年度設計を進めていくタテマチの部分に関しては、これまで以上に合意形成のプロセスが重要な部分。デザイン会議においてはデザイン面での役割になるが、市と連携して丁寧に進められるように考えていく。

### 2. 実行委員会の立上げと事業計画

実行委員会より資料に基づき説明

### 3. 東船溜まり・緑地の活用実証の実施計画

木村大委員より資料・模型に基づき説明の上、議論

- 毎月実施していく構想もあったと思うが、8~10月に絞った期間設定になった理由は。

→単発のイベントでなく日常を作る社会実験と想定した場合、まだまだ緑地は日常使われる場所となっておらず、まずは夏休みに子どもが遊ぶ姿を作り、それを通じて3世代にわたって利用されるような流れを作っていきたい。

- 冬の対策についても推進会議で指摘があったが、そこは検討できないか。  
→閑散期対策には大きな魅力が必要であり、日常を検証する社会実験とはまた異質の検討をする必要がある。
- モバイルファニチャーのイメージをしっかり整理した方が良い。緑地に配置されるもの、カモンワークなどの方で地先管理されるもの、岸壁で活躍するもの、がそれぞれどうなるか。  
→A地区前と東船溜まりは別のものとして捉えて整理していく。緑地の活用と船溜まりの実証はそれぞれ意味合いが違ってくるので、検証内容も切り分けながら検討を進めていく。
- 緑地で飲食があるのを将来像とするとA地区の事業者公募に影響があるのではないか。  
→緑地が活性化することでむしろ前向きな効果があると想定される。

#### 4. カイキョー大噴水の検討

長町委員より資料に基づき説明の上、議論

- 3月の実験により、航路への光の干渉など当初の懸念事項は解消されていると想定されるが、残る懸念点としては、夏に多い東、南東の風。これに対しての影響がどこまで検討できるかどうか。
- シミュレーションにおいては風速10mまで確認している。細かい飛沫粒子に関しては、実際のものとは異なる消防ホースでの実証では有意な検証にはならない。実際のもの・実際の環境でどこまで求めるか、ということになってくるが、例えば実際の噴水で風が吹くまで検証し続けるというのも現実的ではない。
- 目下の課題は、設置してはダメという項目ではなく、風速の確認など運用で調整可能な課題である。これを踏まえ、まずは設置をし、運用を試しながら段階的に進めることが妥当として推進会議に諮っていくことではないか。

#### 5. A地区護岸（モバイルアーキテクチャー含む）の検討（概要イメージ）

熊谷委員より資料に基づき説明の上、議論

- クルーズ以外にも様々な船舶が接岸するので、それに支障がないことが必要。また、クルーズ寄港時には観光バスなど車両の進入も考慮することがある。加えて、入国管理等の手続きのスペースも必要となるため、そうした対応ができる前提のものを検討していく必要がある。
- また、悪天候時の安全性や保管ヤード等についても協議が必要。  
→全撤去、ということだけでなく、どのくらいの条件でどういった対応が必要になるか、例えば安全上支障がない箇所に固めていくなどの調整を協議していきたい。  
管理主体が必要となり、そのためには財源も合わせて検討をしていく必要がある。
- なかなか仮設で、という規模のものではなくなってくるので、常設できるものを少しずつ増やしていくような形でのステップになるのではないか。見栄えが担保できる程度のスモールスタートを検討する必要がある。  
→3ブロック、28ユニット程度が1つの単位じゃないかと思う。今後、設計を具体化し、模型等も用いながら検証していきたい。
- 市場の近くについては魚の積み下ろしなども考慮してほしい。

- 市場でお寿司などを購入した人に向けては有効なものになり得るが、一方でそもそも海沿いで食べられるということが伝わっていかない懸念がある。  
→ここで食べられますよMAPのようなものを検討して関係者で配布するなどの対応も有効ではないか。

#### 6. 交通・駐車場に係る検討

都市計画課・イノベ課・榎本委員より資料に基づき説明の上、議論

- 観光バス要の駐車場の位置が変わってくるが運転手への配慮なども考慮すべき。渋滞もあるので、旅行会社からの懸念が出ることも想定される。

#### 7. 関連事業も含めた検討の体制

木村委員より資料説明

(現状の整理の全体共有のため、特段議論は無し)

以上